

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 3 回相模原市文化振興審議会				
事務局 (担当課)		文化振興課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 0 2 (直通)				
開催日時		令和元年 9 月 1 0 日 (火) 1 0 時 0 0 分から 1 2 時 2 0 分まで				
開催場所		相模原市役所本館 2 階 第 1 特別会議室				
出席者	委員	1 1 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	6 人 (市民局次長、文化振興課長、他 4 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 次期さがみはら文化振興プランについて (2) その他 3 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開 会

事務局より金子委員及び友田委員の欠席について報告を行った。

2 議題

(1) 次期さがみはら文化振興プランについて

事務局から資料1に基づき説明を行った。

前回までの本審議会に出ていた内容がかなり具体的に反映された。具体的な人、モノ、コトについて、今の相模原でどのように文化芸術として行われているかというところの記載が多くなってきている。これは共通の理解であったと思うが、実際にやっていることはあるがなかなかそこが周知できていない、見えてきていないということで、現状のところをまずは特化し、そこを起点として文化芸術を発展、あるいはこれからの展開を考えていきましょうということだったと思う。この素案はかなり踏み込んで、前回と違いかなり具体化している。SDGs というものも出てきたが、なかなかこれを共通に同じように活用するのは難しいと思うが、新しい概念でもあるので、考え方を換えれば、ここを正しく皆さんで広げていけば、相模原市に限らず、かなり大きな広域なプランとしてこの考え方を反映できると感じる。後半特に第4章以降に具体的な取組が追記された。第5章では重点プロジェクトが特出しされ、第6章も推進体制として主体別の主な役割が加筆された。まずは皆さんに第4章から見ていただきたい。27ページからの具体的な取組というところで、皆さんのご意見をお伺いしたい。国の方でも文化芸術という言い方をしているが、文化と芸術なのか、芸術を文化に高めるのかなど、色々な考え方をここに反映できていると思う。アートやアーティストと出てくると美術分野に特化したように見えるが、ここはもう少し広い広域な考え方がベースにあるのかなと思う。お気づきの点で不足のことがあったり、特に限られた中で書いていることなので、網羅というのは難しいので、別に階層的に見せていく、説明していくということにはなると思うが、気になるような点とかあればその辺も伺いたい。

相模原市民ギャラリーという言葉がどこにも出てこない。市民ギャラリーは相模原市の中では美術館に代わる重要な拠点だと思うが。

美術の分野における施設として一番歴史があり、代表的なのが市民ギャラリーということで理解し、認識している。また、市民ギャラリー以外にも音楽の分野においては、様々な文化施設を有しており、それぞれ個別の施設名は出していないが、施設の計画的な改修であったり、お客様に使いやすく喜んでいただけるような運用の改善であったりといったところは、計画の中に盛り込ませていただいた。また、11

ページに現在市内にある公共施設を中心とした文化施設を記載しており、市民ギャラリーも紹介をさせていただいている。

行政用語かもしれないが、全体的にタイトルがぼやっとしている。もう少しわかりやすい端的な言葉にできないか。そうすると、もう少し各章、各項の中身がわかりやすくなる。

今、相模原市全体で国際プランや、観光プランなど色々なプランを一気に作り替えているところ。よそのプランとも書き方の整合を図り、可能であればやわらかい言葉、もう少しわかりやすい言葉に調整をさせていただく。

30ページの「東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした事業の展開」とあるが、具体的には何かやっているのか。

オリンピック・パラリンピックというのは、事業上は文化とスポーツの祭典ということで、東京オリンピックにおいても、国全体で文化事業を盛り上げていこうということで、国全体がそういう方針で動いている。相模原市も、具体的な事業として昨年度あたりから、国際理解につながるような音楽鑑賞会であったり、市民オペラであったり、あるいはコンテンポラリーダンスなど、オリンピック絡みのレガシーにつながるようなものを創造に向けて取組を進めている。

コンテンポラリーダンスは、さがプロ 2020 事業と位置付けており、基本的には市全体で外の団体も含めて、みんなでオリンピックの機運を醸成しようという取組。政令指定都市である相模原市も国と一緒にあって、その機運を醸成し市民にもそれを伝えて、何かしら残そうという動きをしている。

○先ほど階層という言い方をしたが、そういったものが背景にあると思っている。先ほど出た市民ギャラリーの件だが、特徴的な施設ということで出ていた11ページは、いわゆる公共性のある施設だが、民間を含めると様々な施設があると思うので、そういったところが明確に分かり、民間や協会・財団に委託していくようなプランニングであるとか、その辺の展開というものも読めるようになってくる頃なのかなと思うので、少しフォローを違う場面でしていただくと良いのかなと考える。今お示ししているプランの本編には、この後ろに用語集であったり、あるいはアンケートの結果であったり、今回ご審議いただいている推進体制であったり、様々な資料を加えさせていただこうと考えている。

一般の方がこれだけの分量をどういう形でご覧になるのか。凄い丁寧に書いた分、難しくなってしまう、これはこれで大事な資料だと思うが、コンパクト版みたいなのがあった方が良いように感じる。

今回記載させていただいた48ページに様々な主体の役割というものを書かせていただいております、市民に期待される役割として市民の方々にも積極的に文化の振興に関わっていただきたいという思いで今回作らせていただいたもの。そういう思いをこれ1冊で市民に読んでくれと言っても、なかなかできることじゃないなというこ

とで、今回ダイジェスト版を作成させていただきながら、そうしたものも活用して市民の方々にご理解をいただけるような取組を進めて参りたい。

この会議の中で必要なのは、このプランが市民の方にどれだけ浸透し、あるいは各主体がこれを理解して、何らかの形でみんなが緩やかに連携していくことにつながるということが一番大事だと思うので、プランをわかりやすくしたダイジェスト版を作るということであったり、何かしらそれを周知する場面を作りこのプランをみんなに知ってもらって、みんな土台にしていくというステップを必ずやってほしい。

芸術文化を振興させるための、手引きというかガイドブック、それをどういう場面で使うかというところでいうと、やっぱりその使用頻度を上げるということが大前提だと思う。その使用のタイミングや頻度を上げ、どう活用していくかということ、この審議会でも少し踏み込んで考えていく必要がある。

- せっかく美術大学の先生方がいらっしゃるので、今の学生さん達に広めていただける何か共通のパイプを作っていたら、若い力を何とか引き出せるよう考えていただけると良い。

プランの周知、市民の方によりご理解いただくための方向として、今後大学に限らず様々な主体の方々にお願いをしながら進めていけたらと考えており、それぞれの団体と相談を進めさせていただきながら、こちらで報告をさせていただくという形をとらせていただければと考えている。

次の5章だが、重点項目なので具体化していくことがないと間に合わないものがあったり、あるいはこの審議会でもどのように関わるのか、今後の審議会の在り方にも関わるようなところだと思うが、何かご意見をいただけたらと思う。

- 学校訪問事業の具体化に関して、教育関係、特に義務教育も含めてそういったところに民間に近い方が入っていくのは、容易なようで色々なハードルがあるので、ここも情報の提供の仕方とか、事業枠に美術、音楽以外でも多目的な事業も出てきているが、そういったところで関係付けをしていくことで、相互理解が必要ということもあるほか、あるいは教育者、講師の認定の仕方、派遣の仕方等々も各分野で違って来るかもしれないので、その辺も含めて市の方としてどういうネットワーク、あるいはデータを持っているということ、データバンクではないが、その辺が出てきてくれば、教育的なパッケージとしても汎用性が出たり、使い勝手が良いものになると思う。

学校訪問事業については、現在音楽家連盟さんと文化財団とで共同で取り組んでいただいております、非常に良い取組だと理解している。ぜひ美術の分野でもこうした事業をお子さん方にできないかなということで、芸術家協会さんにご相談させていただいて、ここに書かせていただいたところであり、芸術家協会さんで新たに始めるということなので、来年度から一気に気流に乗れるのか未知数だが、数年かけて音楽家連盟さんと同じようなペースでできるように、体制を組めたらと考えていて、

こちらについては市民ギャラリーなりアートラボが窓口となり、連携をさせていただければと考えている。

一番大事な部分は依頼を提供する側と受け入れる側の双方から信頼されるコーディネーターがしっかりいること、または、信頼のおけるコーディネーターが育つことである。

音楽家連盟や相模原市民文化財団が関わってきたような、長年の取組の実績やノウハウを、反映させたり、新しく始めたり、これからもっと取組を推進したり、そこは良い意味で実績があるところに頼って、そこに合わせていくような取り組み方もあるとすれば、何本かのセットでの提案もあるかと考える。例えば美術・音楽・演劇をプランで3つ、あるいは文化財なども含めて、いくつかの分野が関わって進めることで、お互いの情報提供も含めて、少しずつ違うつながりが芸術、あるいは文化として現場に反映されていくことがあるかなと思うが。お互いに少しそこを歩み寄ってみては。

魅力あるプログラムを提示するということをコーディネーターの人に託して、コーディネーターが信用されて、生の演奏が、あるいは生の絵の美術がどれだけ大切か、素敵かということを知ってもらふ熱意。子どもたちとプロの芸術家を結び付けた真ん中の人たちの熱意によって変わらと思う。

今回のプランでは、33ページにあるように、「次代の文化を担う人材の育成」、子どもたちの育成というのを、プランの中の5本の柱のうちの1つとして非常に大きな位置付けをさせていただいている。今回のプランの遂行にあたっては、教育委員会との密な連携は非常に重要になってくる、欠かせないという風に認識をしている。今後教育委員会との連携をさらに密にしながら進めてまいりたい。

どこをベースキャンプにするのかというのが一番重要である。個別にいろんなことをやっても、なかなか情報は出て行かないので、逆にここに行けば色々な情報が集まるというベースキャンプのような、情報が集約されていて、例えば、社会で何かやりたい、美術で何かやりたい、音楽で何かやりたいというときにここにいれば、何かサポートをしてくれる、情報がここに集まっているというところを充実させるというのが市としての一番重要な役割だと思っている。アートラボはしもとや市民文化財団がその位置付けに上がっていると思うが、重要なのは人。美術の場合、人の人脈であるとか、その人のノウハウというのが非常に重要で、正規の職員をどのくらい雇用するつもりであるのかとか、3年くらいで任期が切れてしまったり、なかなか持続していくのが現実的には難しいというのが状況だが、その辺のコーディネートをどのように市が考えているのか。そこは非常に心配なところなので教えていただきたい。

35ページに「専門的な人材の適切な配置」ということで記載をさせていただいているが、アートラボであったり、市民文化財団等々で専門的な職員の育成と配置を

していきたいと考えているところだが、具体的な人数の目標は定めておらず、今後検討していきたい。

正規の職員なのか非正規の職員なのかというのは非常に重要な問題で、現場にいる方は良く知っているのではないかと思うが。

市民ギャラリーの専門職員は5年間で変わってしまう。せっかく育ててこれから続けてやってほしいというときに、臨時職員だから育たない。美術館計画があるにも関わらず育てていない。

音楽家連盟を長くやっているが、役職に関係なく行政の職員は3年、5年経てば絶対に動くわけで、行政のみに頼るのではなく一緒に育っていく、また私たちが育てるという意味で、おこがましいかもしれないが、育てるという意味で市役所の職員の人に何もかもしてもらおうとは思ってなくて、市民団体として行政を飛び越えて自分たちで自立している団体だということはいつも肝に銘じている。

やはりベースを築くことはすごく重要である。そこに情報が常に集まり、みんなが聞きに行くベースをつくってほしい。そこがきちっと持続していくように、その人たちがころころと変わってしまうと、その情報が次の人にうまく伝わっていくかどうかというのはやはり心配である。

○先ほどから出ていた意見で、音楽やアート系、伝統文化など様々なコンテンツやプログラムなどを先ほどまとめる、束ねるみたいな話が出ていて、それは凄く良いやり方だなと思っている。単発で皆さん努力されて、色々なルートで開拓され、継続されていると思うが、もう少し真ん中のパイプをはっきりさせて、発信側と受け手側の二つをつなぐところのシステムをちゃんとクリアにしておかないと、単発で皆さん努力しているが、1 + 1 が3にならないと感じる。色んな関係の方がここにいらしているので、そういうシステムづくりであるとか、何が根詰まりをおこしているんだろうかというところを整理するところはすごく重要かなと思っている。コンテンツ、ワークショップなど何でも良いが、それを一つではなく、いくつか掲げて発信し、デザイン化した方が良い。今までとやっていることは同じで良いが、その束ね方を見える化して、行きたくなるような気持ちにさせる、相模原はこんなことやっているんだ、カッコいいねということが分かり今までよりも行きやすくなる。あるいは今まで知らなかった人に届きやすくなるということが起こるのかなと思っている。それをどうレガシー化するか、アーカイブ化するか。市民ギャラリーやアートラボはしもとでもそうだが、そこでやられてきたものが、ざっと検索できるようなことがあると、職員が変わったとしても、もうこれはやられているんだ、この上にこういう発展形があるよねということで、何か今までよりも良くなるかなと思う。

○推進体制としての体制図について、行き来があるように見えて、どこかでそこが断絶されている。断絶とまでは大袈裟だが情報共有がされていないということで、こ

れを少し分かりやすく段階的に見えるような形を作っていく必要がある。どうしても大きなまとまったところでの体制図にはなっているので、実際にはもう少し複雑な行き来があると思うが、こういった推進体制図が、先ほどの手引きのようなものにも反映されて、個々の関係性はどこに聞けば、どういう風に自分の方に戻ってくるのだろうかということを知りやすくはしておいた方がよい。

様々な分野の連携で、先ほど1 + 1が3になるというお話があったが、今後はそういう事業展開が求められていくと感じており、そういうコーディネーターあるいはマッチングを行う専門職の配置までは難しいが、そういった人員をしっかりと確保して、そうした体制を築いていきたいと考えている。マッチング等の機能の強化については、ゆくゆくはプラットフォーム化なり、関係者が集まって議論するような場が、最終系としては目標になってくると考えており、今回は文言にはしていないが、念頭には置きながら書かせていただいている。

○建物を建てたら1%をアートに使いなさいという「1% for Art」という制度を、50年くらい前からフランスやドイツ、台湾、韓国などが取り入れている。美術家連盟はそれを取り入れてもらいましょうという運動を始めている。

○民間で取り組んでいるところもあれば、あるいは自治体で条例まではいかなくとももう少し緩やかにそれを始めているところも、確かに出ては来ている。

○そういう風に意識を持っていただければ。色々メンテナンスなどの問題もあるが。今回、プランの中ではアートフィールドという考え方をプランの中に入れさせていただいており、市内の様々な例えば、藤野であったり、市内に様々な文化資源があるので、そうしたもののネットワーク化を図り、市全体があたかも美術館であったり、音楽ホールであったり、そうした環境に少しでも近づけていこうという考え方を今回初めてプランの中に取り入れさせていただいた。その一環としてこの委員会の中でもご提案をいただいた、アートマップというものにもつなげていきたいと思っている。なかなか1%の義務化とまでは難しいが、少しでも街中に美術があふれるような街にしていけたらと考えている。

○「プランの進行管理・評価」について、49ページの評価の仕方であるとか、内部評価、外部評価というのは当然出てくるが、評価をどこがどのように行っていくのかということと、8年間のプランに対しての中間の調査や精査であるとか、4年ごとのプランの見直しであるとかが出てくるが、こういったところを我々のような審議会が関わるようなことがあるのか、あるいは違う体制をもう少し盛り込んで、しっかりそこを実行していけるところがまずは必要だと感じる。

○短期・中期・長期といったところで反映されていくもので言えば、短期的なところの始まりは作っていけると思うが、この中期的なところまでのビジョンでいくと、先ほどのコーディネーターではないが、プランニングをしていって、実際にそこに立ち上げに関わりつつも、実行していったところの段階を見ていけるようなことが

ないと、また途切れ途切れのものになっていく可能性がある。

○Web サイトや SNS とかで情報発信をしてくれるようなベースキャンプとして、多分それがアートラボはしもとに置かれると思うが、そういう情報を集約するところを作りましょうということだと思う。情報発信をするところと情報収集するところ、それと皆さんが今までやってきた素晴らしい取組を別の人たちに伝えるということが実は凄い重要である。音楽の人たちは、こういう風にやって素晴らしい活動をされていますよというのは、美術の人が聞いてそういうやり方もあるんだということにもなり、人材の交流もそこで生まれることもある。そのベースキャンプを、どういう言い方が良いかわからないが、情報が収集されて、情報が発信される場所をどこにするのかというのを決めて、それで専門の職員、あるいは、主体的に非常にアクセスを良くできる市役所とうまくコンタクトができるような組織を作ることが重要ではないかを感じる。そうすると、そこからどういう風に情報発信するのか、外の人たちと情報を持ってきて、キーワード検索でこの人がどのようなことをやっているのかということが、常に分かるようにうまく仕組みができて、横のつながりもできるし、縦のつながりもでき、市役所とすればこの人たちにお願いすれば、非常に良いコーディネーターの人をできるだけ育てる仕組みにして、その内容に合わせたコーディネートをしてくれて、より皆さんの力が一番うまく生きるように仕組みにできるんじゃないかという仕組みのロードマップ、組織図と実際の仕組みを作られるのが良い。

○今は現状の体制でどなたかがそのポジションについたり、このことを理解してもらって推進してもらえないと思う。今年千葉県各市がアート系の職員を募集した。あれは結構画期的なことで、色々これまで喧々諤々やってきたが、やはり中心となる人やシステムを作っていくとか、そういうことをできる人がいないと結局バラバラになったり、積み上げてきたものが元に戻ったり、継続されない。近々としては今出ている意見を集約して推進してもらおう人とシステム、プラットフォーム、そういうものが必要である。

相模原市は72万人の政令指定都市で、各分野で非常に多くの団体に活動していただいたり、非常に多くのプロの方にお住まいになっていただいているという状況がある。そうした中で全ての分野を一人の者がというのは、これはなかなか難しい話かなという考えており、現段階で考えているのは音楽の分野については、市民文化財団に引き続きコーディネーターの役割を果たしてもらいつつ、美術の分野については、専門の職員をアートラボはしもとか市民ギャラリーか、そちらにコーディネーターを置く。写真の分野、それから伝統文化、そうしたものについては市役所の文化振興課がその機能を果たしていくという三者で、それぞれ機能を果たしつつ、情報をお互いに共有して新しいものを生み出していく、そんな体制にしていくのが一番良いだろうという風に現段階では考えている。そこまではプランには書き込んで

はいない状況ではあるが、そうしたことは念頭に置きながら、このプランは作られているということをご理解いただきたい。

○非常に具体的に拠点が示されたので、あとはその連携というところだと思う。また、一般の方々にも先ほど言ったような体制図であったり、ロードマップに近いような、どういう風にこの振興プランを活用できるかというところに結び付けていただけの説明ができるようなものが何か出てくれば良い。

○これまで内部評価、外部評価というのは毎年調査して、毎年やっていたのか。内部も進行管理は毎年行っており、それから外部というのはこの審議会の前身である文化振興懇話会という組織に概ね毎年報告をしてご意見をいただくという状況であった。今後はそれを制度化し、庁内的な検証を毎年行い、それからこちらの審議会に毎年ご報告をして、ご議論をいただくという体制を整えたいと考えている。

(2) その他

今回の審議の結果を踏まえて、事務局にて素案の修正版を作成し、後日、各委員にご意見をいただくことを確認した。また、当審議会における意見については修正版に対するご意見を踏まえて再修正した素案をもって、答申とすることに決定した。併せて、次期プランの策定に向けた今後の流れについて説明し、了承された。

3 閉 会

以 上

相模原市文化振興審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	いわた 岩田 ゆず子	公募委員		出席
2	おおもり 大森 さとる 悟	女子美術大学芸術学部美術学科教授	会長	出席
3	かねこ 金子 ともえ 朋沐枝	相模原市文化協会副会長		欠席
4	かみじょう 上 條 ようこ 陽子	相模原芸術家協会会長		出席
5	ささの 笹野 あきお 章央	公益財団法人相模原市民文化財団 常務理事		出席
6	しのざき 篠崎 しげお 重雄	相模原市民俗芸能保存協会副会長		出席
7	すぎもり 杉森 じゅんこ 順子	桜美林大学芸術文化学群教授		出席
8	すずき 鈴木 まさひこ 正彦	光と緑の美術館館長		出席
9	とつか 戸塚 あつお 厚生	相模原市文化財研究協議会会長		出席
10	ともだ 友田 ゆきお 幸男	相模原市民音楽団体協会理事長		欠席
11	なかざと 中里 かずひと 和人	東京造形大学造形学部デザイン学科教授	副会長	出席
12	ひぐち 樋口 みきこ 美佐子	相模原音楽家連盟事務局長		出席
13	みつもと 三本 ひろこ 博子	公募委員		出席